

坪内逍遙大賞の創設

市は、「逍遙のふるさと、みのかもの新たな旅立ち」として、美濃加茂市制40周年記念事業「坪内逍遙大賞」を平成6年に創設しました。
これは、坪内逍遙の功績をたたえるとともに、市民文化の高揚を図るために創設しました。



第10回（平成15年度）の坪内逍遙大賞授賞式
九代目 松本幸四郎さん

- 選考対象 毎年1月1日を基準日に、その前1年間に発表された演劇に関する活動・著作のうち、坪内逍遙の功績を再認識させるような優秀な活動・著作が対象。全国を対象とし、個人・団体は不問。
- 対象分野 演劇に関する脚本、演技、演出、制作、舞台美術、その他舞台活動、研究・評論

第1回



六代目
中村歌右衛門

淀君からお夏まで。逍遙作の歴史劇を通して演劇会に大きく貢献。

第2回



島田正吾

逍遙が命名した「新国劇」の心を受け継ぎ、いぶし銀のような舞台を見せた。

第3回



加藤道子

声優一筋。だれもが一度は、その声に接している。ラジオドラマの第一人者。

第4回



劇団前進座

逍遙が提唱した民衆本意の演劇活動。その実践に情熱を傾ける。



第5回

野村万作

シェークスピアの狂言化や現代演劇との交流など、新しい試みに意欲を燃やす古典芸能伝承者。



第6回

小沢昭一

民衆芸能の研究に力を注いで30余年。舞台に、映画に、執筆にと活躍する異色の俳優。

第7回



仲代達矢

人間の奥深さを演じ続けて半世紀、「無名塾」の若者たちにこれからの夢を託して。



第8回

四代目
中村雀右衛門

現代歌舞伎界の最高峰と称されながら、なおも究極の人工美を追い続ける女形の名優。



第9回

二代目
水谷八重子

映画に、テレビに、ジャズに活躍。新派の大黒柱にして、朗読や文筆にも、新境地。

第10回



九代目
松本幸四郎

見果てぬ夢を追いかけて。常に演劇の可能性を追求する梨園の先駆者。

「朗読フェスティバル」



平成8年第3回坪内逍遙大賞を受賞された声優・加藤道子さんを講師に迎えて、行われた朗読講座は、大きな反響を呼びました。
平成9年に「声のドラマ97」市民実行委員会が立ち上がり、朗読講座が開催されました。
同年11月には、「第1回朗読フェスティバル」が開催されました。この朗読フェスティバルも、回を重ね昨年12月には8回目を迎えました。

平成15年度岐阜県芸術文化顕彰を受賞

坪内逍遙大賞は、芸術文化の振興が認められ、「平成15年度岐阜県芸術文化顕彰」を受賞しました。